博 慈 会
老研一口伝言

北里柴三郎と未病：新しい千円札の顔が語るもの

2024年7月、日本の新しい1000円札の顔が北里柴三郎となりました。１万円ではなく千円というところがいいです。この選択は、日本の医療の進歩における彼の多大な貢献を讃えると共に今後の医療保障制度を皆で考えていこうとするメッセージではないでしょうか。北里柴三郎は、破傷風菌の発見や抗毒素療法の確立など、多くの医学的偉業を成し遂げましたが、その原点は「医者の使命は病気を予防することにある」と言う信念でした。今で言うなら病気に向かわしめない「未病」の概念に相当するかと思われます。

北里柴三郎の偉業

北里柴三郎（1853-1931）は、細菌学の父と称され、彼の研究の中でも特筆すべきは、留学先のドイツのコッホ研究所でこれまで誰も出来なかった破傷風菌の純粋培養とその治療法の確立です。破傷風は非常に致命的な病気であり、当時は治療法がほとんどありませんでした。しかし、北里は破傷風菌が嫌気性菌であることに気づき低酸素下で培養することで純粋培養に成功したのです。そして今で言うワクチンを開発することで、多くの人命を救いました。また、彼はペスト菌の発見者の一人としても知られています。香港で原因不明の疫病が大流行した1894年、感染すると９５％の確率で死者がでる疫病〔黒死病〕です。香港からの調査要請に応じ、日本人チームとして香港に乗り込みたった２日目で原因であるペスト菌を発見し４日後には政府に報告しております。

昔ペスト、今コロナ：またペスト菌はネズミに付いたノミにより媒介されますが猫には耐性がある事を発見し、猫を飼うことを政府に提言し実行させております。おかげで日本ではペストには少数の犠牲者で済むことになりました。思い起こせばコロナ禍での三原則。マスク、手洗い、ソーシャルディスタンスの先駆けではないでしょうか。老人病研究所ではこれらに加え、胸腺ノックを推奨させていただきました。

未病の概念と予防医学：さて、北里柴三郎が唱えた「予防」の概念は、病気が発症しないように対処する「手段」のことを指します。「未病」は病気に至るまでの兆候を早期に見いだし対処するゾーン（期間）を指します。「現代未病」の考え方は北里の予防の力を背景におき、自分が未病の責任者として行動することを推奨しております。例えば、定期的な健康診断、予防接種、生活習慣の改善などに従事し「自分の身体に鋭くなる」ことが含まれます。現在ではAI機能を有したウエアラブル端末で未病チェックが可能です。これらにより、病気に進行する前に対策を講じることで、重篤な病気を未然に防ぐことができます。もし現代に北里がいればきっとこの未病の概念を積極的に取り入れることを推奨したことでしょう。

新しい千円札からのメッセージ

千円札という身近なお札に北里柴三郎の肖像が採用されました。これは少子高齢社会、人口減少に向かう日本においてその支えとなる国民皆保険制度の持続ができるよう国民全体が病気にならない様に願うメッセージがこめられているのではないでしょうか。

●著者　福生 吉裕（ふくお よしひろ）

一般財団法人 博慈会 老人病研究所所長